

畿央大学

健康科学部
人間環境デザイン学科

第5回 卒業制作・論文作品集

卒業制作・論文作品集 5

畿央大学 健康科学部
人間環境デザイン学科

2010

The 5th Graduation Works.

Kio university

Department of Human Environmental Design.

ご挨拶

畿央大学 学長

冬木智子

立春が過ぎ、あちこちの樹々に白梅が美しく咲く頃を迎えております。

いよいよ来る3月には畿央大学第5回卒業式を迎えることになりました。

思えばはるか60有余年以来学園創立の夢の実現に添いつつひたすら歩みつづけた年月でありました。

この度本学健康科学部人間環境デザイン学科の卒業制作発表におきましては、まさに生きとし生ける者の幸せと、美を追求する若い学生達の情熱の表現としての制作作品であり研究論文であります。それは自然や人間の社会環境に対する現象に優しい心をひらき、感動し、創造する美しい心情から生まれたものであります。家族との温かい語らいの場、近隣の人達との交流、手作りの衣服製作のこまやかな作業や美への憧れや優れたセンスのよさ、すべての事象に心をひらき感動する品性から表現されたものと考えられます。

これ即ち本学園の建学の精神である徳をのばす、知をみがく、美をつくるの真髄に添うものであります。

この度これら卒業制作の数々や研究論文の発表に当り、個々の学生達に深い愛情を注ぎ高邁な理想を抱いてご指導頂きました諸先生方に対し、改めて厚く感謝申し上げます。

併せて本学の真価は今後これら卒業生達の社会活動における貢献によるものと心より期待し、重ねて全学あげての変わらぬご協力をお願い申し上げます。ご挨拶と致します。

目次

7	制作	
	学長賞	
8・9	鈴木 勇輝	人々の生活と紋様～奈良時代の人々が紋様にこめたもの「支配・支え」～
	優秀賞	
10	清水 祐希	華段～未来の吉野建て～
11	高田 亜理佐	蚕・懐古・廻故～繭から糸・糸から布・布からドレス～
12	蓮見 彩衣	波打際の陣幕
13	阪口 修平	StyLe Of neW とまるトコロ
13	有澤 大雅	青い鳥とひまわり～美しき夢～
14	今井 康夫	夢州カジノ
14	上埜 早也佳	弔う庭～大阪港にある公園墓地～
15	牛窓 未穂	The School of Craftsmanship
15	大田 真由美	見られる・見せる集合住宅
16	大前 嘉秋 / 逸見 優衣	エイムズの部屋の習作
16	片岡 大規	祝祭都市～水の都大阪
17	片川 飛鳥	CAsTle 私の本棚はネコの城
17	川中 雄貴	古美る
18	北村 英久	麻の協演～stream in old new cute～
18	北山 明日香	みんなの庭
19	桐山 翔平	仕舞屋計画 桜井本町商店街景観改修案
19	固城 修平	NEW SHAPE 近鉄郡山駅前商店街に新しい風を
20	小松 美保子 / 三浦 剛	畿央サンゴール -kioキャンパスコンバージョン-
20	齋藤 隆文	Triangle & Hexagon
21	阪本 純司	避難のための小学校
21	左近 諒 / 矢部 達哉	Artist coup d'etat アーティスト達のクーデター
22	新 信彦	SHIN PLE～たためるダイニングチェア～
22	高橋 彩子	大和川流域公園
23	田村 昌敬 / 福田 守 / 山本 孝	生駒山上遊園地
23	築地 美希	マルチワゴン
24	寺本 寛明	Corrugated Cardboard Chair～段ボール素材の椅子の提案～
24	道幸 祐太	おいねマラソン
25	仲谷 彬	町中に住む～本町通り集合住宅化～
25	藤飯 ゆりか	Villenze～星を望む家～
26	増井 清徳	高齢者の就寝生活を支援するベッド
26	松本 隆志	Free Variation
27	彌栄 ゆうき	灯の木・ヒノキの突板を使った照明-
27	森本 真世	休日のための本屋さん
28	谷内口 由里江	森のまなび舎
28	吉村 拓哉	SEA X SEE
29	吉村 美和	視覚障害者に優しいインテリアボード【星の球】
29	渡辺 健太	Relaxation Bath～from the universal design～
31	論文	
	優秀賞	
32	北田 まみ	幼老複合施設の施設計画に関する調査
33	浅野 領太	「就職活動時におけるネクタイの評価性について」
34	内田 庸介	水の空間演出に関する事例研究
35	垣原 雅人 / 高田 顕寛	LED照明の分光スペクトルと演色性に関する研究
36	木田 尚子 / 山本 咲	味覚表現における色彩について～レトルトカレーを例に挙げて～
37	牛房 誠也 / 坂口 光亮 / 鈴木 貴大	玉入れ課題の技能の熟達におけるメタ認知についての実証的研究
38	松島 逸人	大阪市の「児童いきいき放課後事業」に関する調査研究
39	村岡 大希	高齢者向け優良賃貸住宅の入居者の生活に関するケーススタディ
40	制作風景	
41	卒業研究・作品展覧会	
42	発表風景	
44	講評	

制作 works



人々の生活と紋様 ～奈良時代の人々が紋様にこめたもの「支配・支え」～

私たちの身の回りにあるものすべてには、現在に至るまでに様々な歴史を積み重ね、その存在意義があります。しかし、様々なものがあふれる現代では、その意義について希薄になってきています。私が大学に入ってから出会った染色もまた、様々なデザインがあふれる現在では、その意義があいまいになっています。そこで染めの紋様や色の意味を、昨年節目の1300年を迎えた奈良時代までさかのぼって研究することで、その意義を再確認したいと考えました。今回の、二つの作品は当時の身分制度で上位にあった人々と底辺で国を支えていた人々をイメージして、布地・染料・紋様を決定し、和服に仕上げました。



鈴木 勇輝
Yuki Suzuki

村田ゼミ



華段 ～未来の吉野建て～

道沿いの店舗併用住宅と駐車場の屋根を切妻平入りにし、駐車場は格子で車を隠し、景観を守る。斜面側は計8の住戸が建ち、店舗併用住宅と合わせた9戸はお互いに見合いをしない設計となっている。すべての住戸の窓からは吉野山最大の魅力である山々の絶景を楽しむことができる。斜面の8戸は清水寺の懸造をイメージし、木造の支柱によって支えられている。斜面側からの立面はまるで桜に浮かぶ城の様である。



清水 祐希
Yuki Shimizu
三井田ゼミ



蚕・懐古・廻故 ～繭から糸・糸から布・布からドレス～



高田 亜理佐
Arisa Takada
村田ゼミ

蚕は、ゴマ粒ほどの小さな卵から孵化する。そんな小さな、小さな生き物が40日かけて大きくなり白くてきれいな繭になる。そのきれいな繭から、細くて頑丈な糸や柔らかくてしなやかな糸ができる。そしてできた糸を染め、織りを経て柔らかな布ができる。様々な工程を経て、小さな命は華やかなドレスに変化した。また、上にまとうストールは熱可塑性の特性に興味を持ち、紡ぎ糸の残りを飾り付け、間に真綿を挟んで作成した。



波打際の陣幕

休日の昼下がり、普段の疲れを癒そうと海の近くの公園に行くことにした。
その公園には、私のお気に入りの場所がある。入ってすぐにある、通路、展望台
広場、海の部屋。。。。どれも海が見え、風を感じ、少し守られている空間だ。
その場所で本を読み、ランチを食べ、コーヒーを飲む。
時には友達と一緒に過ごす。
そして野外ホールで行われる演奏が毎月の楽しみだ。



蓮見 彩衣
Ayae Hasumi
藤井ゼミ





阪口 修平
Shuhei Sakaguchi



三井田ゼミ

Style Of neW とまるトコロ

オーストラリア一周一人旅で大きな影響を受けた。現地で宿泊するホステルでは世界中の人々と交流を持つことができた。そんな場所が日本にも多くできればと思い、卒業作品をホステルにした。南国風の建物をベースに日本らしさ、沖縄らしさを取り入れ、日本の旅行者にも海外の旅行者にも楽しんでもらえるよう考えデザインした。



有澤 大雅
Taiga Arisawa



村田ゼミ

青い鳥とひまわり ～美しき夢～

京都デザイン協会主催コンクールに挑戦しました。テーマ「美しき夢」に沿って「青い鳥とひまわり」を創作しました。青い鳥を見る事ができれば、願いが叶うという童話の話から連想し、青い鳥と、私の好きなひまわりの花とを一つの作品にしようと考えました。上衣には、ひまわりをイメージし、サテンを花びらに、合皮を種に見立てました。スカートは、青い鳥をイメージし、鳥の羽をオーガンジーやビーズをあしらったサテン、デシンで作り、スカートにとりつけました。肩の部分にも同様に、オーガンジーで作った羽をつけています。全体を「見てみたい美しい夢」に仕上げました。



今井 康夫
Yasuo Imai

藤井ゼミ

夢州カジノ

2020年に夢洲がカジノの島になり、その島の象徴となるカジノを計画した。天井から吊るされた球体のカジノスペースに空いた窓から光が漏れて、惑星が浮いているような空間が現れる。



上埜 早也佳
Sayaka Ueno

加藤ゼミ

吊う庭

～大阪港にある公園墓地～

吊う庭のテーマは「墓地」。

現代の日本の社会背景からなる墓地の成り立ちをベースに思案した、終の空間である。

空間には、日本の墓地で想像される墓石や火葬場などの設備は存在せず、火葬を行ったのち、死者の遺骨を散骨し、自然に還す自然葬を行う場所である。

庭を介して、生と死の空間をイメージした新しい墓地の創造を提案する。





牛窓 未穂
Miho Ushimado



藤井ゼミ

The School of Craftsmanship

現在、賃金が安く低コストで商品を生産できる国がどんどん現れる中で日本は生産したものを売る、これまでの工業スタイルでは諸外国に勝ち抜いていくことは難しいのではないだろうか。

そこで新たに「生産」するのではなく生産のための「技術」に「教育」を加えたものを商品として売る工業の新たな在り方を提案する。

日本が「技術教育」の1位になること、世界の技術教育の拠点になることを目指して。



大田 真由美
Mayumi Ota



藤井ゼミ

見られる・見せる集合住宅

現在の住宅はプライバシーを守るため、閉じられた住宅になっている。そこで「見」というキーワードをもとに、外に開き、安全で長く住み続けられる集合住宅を提案する。

それぞれの住宅の見られる・見せるレベルに階層性を持たせ、セキュリティ(防犯性)や安全性(家庭内事故・病気等)をより得られるようにし、コミュニティを誘発しやすい仕組みを持たせた。また、居室が用途変換でき、また売り買いできることから、生活環境の変化にも対応でき長く住み続けられる。



大前 嘉秋
Yoshiaki Omae



逸見 優衣
Yui Henmi

金敷ゼミ

エイムズの部屋の習作

歪んだ部屋なのに、のぞき穴から室内を覗くと普通の部屋に見えるという錯覚の部屋です。不思議なことに人の立ち位置によって人の大きさが変わります。その部屋を実際に建てたろう！ということで、縦3m×横5m×高さ3mの建築物を1から造ってきました。残念ながら提出期限に間に合いませんでした！今現在も作成中です。最後まで頑張ります！！！！！！！！！！



片岡 大規
Hiroki Kataoka

三井田ゼミ

祝祭都市 ～水の都大阪

水の都と呼ばれている大阪
今ではその面影が消えつつある
大阪に、昔存在した新川の復興
今ある建物を残しながら
その間を縫うように
新川の水が流れている
川の流れに沿ってゲートが立ち並ぶ
ガラスで出来たゲートは透き通っており、
高さ形もそれぞれ異なっていて
昔の川清さ、水の流れを表現している
ゲートの上には橋がかかっており
川の上を渡れるようになっている
小さい民家から大きなビル・マンション
が立ち並ぶ不揃いな街並みが
川、ゲート、橋により街全体が一体化している





片川 飛鳥
Asuka Katagawa



加藤ゼミ

CAsTle 私の本棚はネコの城

我が家には3匹の猫がいます。それぞれ性格は違いますが高い場所が好きなおことは一致しています。しかし我が家にはキャットタワーがありません。

現在市場に出回っている家具で猫と人が共用できるものはありません。猫のものは猫だけ、人のものは人だけを対象としたものばかりです。

そこで私は「人と猫が共用できる家具」があれば、キャットタワーを置くことができない家庭でも設置することができるのではないかと考え、制作しました。

川中 雄貴
Yuki Kawanaka



三井田ゼミ



古美る

現代の建築はキレイ。しかし、美しいとは言えない。キレイ≠美しい。

では本当に美しいと思う建築物とは何か。私は昔の伝統構法で建てられた小屋組や土間が美しいと感じる。それらは長い年月が経ち、傷つき、ホコリがたまってようやく美しいと言えるのではないか。美しいとはその建物に住むことによって刻み込まれた味なのではないか。

そんな建築物を今の技術で再現できないだろうかと思い、時間による設計というテーマにした。



北村 英久
Hidehisa Kitamura

村田ゼミ

麻の協演 ～stream in old new cute～

不思議なカフェ、自然と音楽家が集まる空間

そんな空間に出会い惹かれこのカフェをテーマにしようと決めた

作成したパーテーションは2つ

1つ目はCD・最近の音楽をイメージし作成すべての模様を直線で織り、色は紫・ピンク、奇抜でもありモダンな雰囲気を感じられるよう工夫した。

2つ目は生演奏・懐かしさをイメージし作成

すべての模様を曲線で織り、色は茶色・黄土色、落ち着いておりクラシックな雰囲気を感じられるように工夫した。



北山 明日香
Asuka Kitayama

中山ゼミ

みんなの庭

「みんなの庭」は、ガーデニングを楽しめる空間です。

庭に人が集まることで様々な楽しみが増える。たとえば、一緒に花を見る人がいれば見る楽しみは大きくなり会話がはずむ。自分が育てた植物を人に見てもらうことで成果を競い合ったりして作る楽しみがある。より多くの人にこのような場を利用してもらいたい。「みんなの庭」は、住民が自分たちで作っていく住みやすいまちづくり(UD)手段の一つになればと思います。





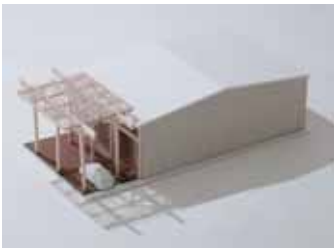
桐山 翔平
Shohei Kiriya



三井田ゼミ

仕舞屋計画 桜井本町商店街景観改修案

京都の商家は商いを辞めると門構えに格子を付けしもた屋になります。かつて桜井は奈良盆地の集積地として大変栄えた事から本町通り商店街の近くには格子がついた日本家屋が沢山あります。現在桜井本町通り商店街はシャッター通りと化していて、通りづらい現状です。そこでシャッターの前に格子の壁を付ける事によりシャッターの冷たいイメージを取り除き商店街の景観を統一することで、住民が利用しやすい商店街を目指しました。



固城 修平
Shuhei Koshiro



加藤ゼミ

NEW SHAPE 近鉄郡山駅前商店街に新しい風を

現在商店街が抱えている問題点、および特徴から考え、この商店街を他の地域の人を呼び込むのはもとより、地元住人がよりよく使いやすくする為に、アーケードと空き店舗のデザイン、アイデアを商店街に与える。



小松 美保子
Mihoko Komatsu

三浦 剛
Go Miura

加藤ゼミ

畿央サンゴール

—kioキャンパスコンバージョン—

畿央大学が抱える2つの課題を、私たちの視点から改善。

1つ目：橋の作成

体育館からD棟、C棟、L棟、食堂を一本の吊り橋で繋いだ。大学のシンボルとなる「畿央サンゴール」の作成。

2つ目：体育館コンバージョン

4年間の学生生活で模型製作の場が狭いことやグループワークの場が少ないこと等に不満を感じた。それを存在する体育館を利用し、コンバージョンすることにより、足りない「場」を体育館に集結させ、新しい形の作業スペースを提案する。



齋藤 隆文
Takafumi Saito

中山ゼミ

Triangle & Hexagon

一人暮らしや核家族化等により、様々な生活様式や生活形態のある現代社会。

1Kのアパートという狭い空間で、家具の置き場所の省略を図れる使用人数や用途によって使い分けられる家具

一人暮らしでも、一般家庭でも、使用できる家具

これらのことを踏まえて、組み換え・組み合わせのできるイスとテーブルを考えました。パターン数が多いので、いろいろ試してみて自分の好きな形を何種類か選んで使ってもらい、お客さんの数や作業の用途によっては普段使わないパターンで使う、というように使用してもらいたいです。





阪本 純司
Junji Sakamoto



藤井ゼミ

避難のための小学校

今後起こりうる南海大地震に備えて、災害時に活躍する小学校を計画した。小学校は自治体の避難所と指定されているが、大体が体育館に収容され、避難生活を送る。短期間の避難生活であれば、耐えることも可能だが、長期間の生活になると肉体的・精神的に大変過酷だ。期間を震災直後から1カ月間に焦点を当て、少しでも人間的に避難生活できる環境をつくった。



左近 諒
Ryo Sakon



矢部 達哉
Tatsuya Yabe



加藤ゼミ

Artist coup d'etat アーティスト達のクーデター

えーやっぱりアーティストというものはね、自由なものだと思うんです。でも…大きな夢を持ってほしいと思いますね。でー大きな夢を持ってほしいと思いますね。大きな夢を持つって、とても恥ずかしいことだと思うんですね。友達からはバカにされて、先生からはねえ、そんな無理やから親からは反対されて…でも最後まで諦めずにやれば、絶対に夢はかなうっていう風には強く思いますね。



新 信彦
Nobuhiko Shin

加藤ゼミ

SHIN PLE

～たためるダイニングチェア～

どこの家庭にも必ずあるダイニング。
主に家族が過ごす場である。
しかし基本的に家族の人数分の椅子しか置いていないので急な来客時には人数分の椅子を確保することができないという問題がある。
そこで普段からも使用でき、収納性が良く持ち運びに適している椅子考えた。
タイトルの“SHINPLE”は英語の“SIMPLE”と「ダイニングに新しい形を」という意味の「新」と、「親しみやすいデザインを」という意味の「親」を合わせた造語である。



高橋 彩子
Ayako Takahashi

藤井ゼミ

大和川流域公園

昨年、平城遷都1300年祭が閉幕した奈良県。この地における、これからの観光のあり方・その施設を提案する。奈良県の四方から支流を集め、奈良盆地を東西に横断する「大和川」。かつて「舟運」として利用され、流域内の至る所に「船着場」があり、明治時代初期までその役割を果たしていたが、今ではその面影は無い。しかし、流域内には数多くの歴史的な遺産が残されている。そこで、「舟運」を観光の足として復活させることを考え、その拠点として「大和川流域公園」を計画した。
施設の計画地は、かつて舟運の中継地として栄えた「河合町川合」付近。この地に50分の1に縮小した大和川流域図を当てはめる。流域の地形があらわとなった公園に、大和川の9つの支流を対象にそれぞれの特徴的な歴史・遺産を取り上げた建物を設置して行く。また、「大和棟」を中心とした「奈良県らしさ」も建築の外観に取り込んだ。観光ガイドブック等を通して歴史地を下見するように、この施設を訪れることにより、観光地の情報を前もって知り、そこから実際に舟に乗って旅へと出掛ける。大和川を基点として奈良を体感することのできるこの施設は、人々の集まる奈良県の新たな観光拠点として機能する。





田村 昌敬
Masataka Tamura

福田 守
Mamoru Fukuda

山本 孝
Takashi Yamamoto



李ゼミ

生駒山上遊園地

夜景は人間が電気を生み出したことによるアーティフィカルな作品である。しかしそれは、発展と引き換えに自然を破壊してきた人類の負の象徴でもある。人類は発展との引き換えに星空も失った。と同時に夜景という光の芸術を得た。我々は、この人類の発展の象徴であると同時にアーティフィカルな作品である夜景を生駒という地で人々にどのように見せることで感動を与えられるかをテーマに生駒山上遊園地の再興計画と合わせて表現・提案したいと思う。



築地 美希
Miki Tsukiji



中山ゼミ

マルチワゴン

このワゴンの魅力は、フレキシブルなところ。

調味料や調理器具の収納はもちろんのこと、ちょっとした作業やモノを乗せたままの移動もでき、キッチンワークもはかどります。

まさに「動く収納・動く作業台」としてキッチンをさらに便利に快適に！





寺本 寛明
Hiroaki Teramoto

中山ゼミ

Corrugated Cardboard Chair

～段ボール素材の椅子の提案～

段ボール＝エコという考え方が定着している。

その考えから段ボールを使う際、ローコスト・シンプル・手軽さなどが求められ、「エコ」という言葉の縛りからデザインが制限されていると感じた。

言葉のイメージに縛られず、段ボールの美しさをフルに生かした椅子を制作したいと考えた。

一つのインテリアとして使える段ボールの椅子を提案する。



道幸 祐太
Yuta Doko

村田ゼミ

おいねマラソン

ゼミで山添村を訪れたときに「おいね」に出会う。「おいね」とは、山添村の女性が昔、着用した防寒着である。亀の甲羅に似た背中に背負う「おいね」は、現在では山添村では見られない。私はその「おいね」に興味を持ち、村民の方々に聞き取り調査を行った。そして、山添村の羊毛と真綿を素材にして試作品を作り、小学校の子どもたちに試着してもらった。その結果、「手放せない温かさと、拘束感がない」という感想をもらい、「おいね」復活の兆しを予感した。この研究を行うにあたり、今まで出会った皆さまに感謝致します。





仲谷 彬
Akira Nakatani



三井田ゼミ

町中に住む ～本町通り集合住宅化～

商店街は「駅が近くアクセスに便利」「周りに店が多く必要なものが何でもそろろう」などの特徴がある。私は商店街は人が住みやすい環境だと考え、桜井市の本町通り商店街に集合住宅を計画した。この集合住宅は住戸が中庭を囲んでいる構成。すべて住戸のLDKのいずれかから中庭が見えるようになっている。同じような集合住宅が連なり、それぞれの中庭が路地やブリッジでつながっている。そして小さな街を作り出す。



藤飯 ゆりか
Yurika Fujii



加藤ゼミ

Villenze ～星を望む家～

一般住宅とは違った魅力のある建物を。非日常的な空間を持つ建物を。きれいな星空を堪能できる空間を。休暇時に友達と集まって楽しめる場所を。気分転換できる、戻りたくなる場所を。細長い台形の2階テラスからは、一番の絶景が広がる。個々の役割を持つ複数の建物からなり、それらを石畳でつなぐことによってこの別荘が一つの町となる。その町並みはまるで、イタリアのフィレンツェを思わせる…





増井 清徳
Kiyonori Masui

中山ゼミ

高齢者の就寝生活を支援するベッド

高齢者のベッドからの乗り降りや立ち上がりの手助けをするベッド造り。仰向けの状態でベッドと繋がっている収納棚に手を伸ばし、物を置いたり物を取ったりすることができ、また、今までにない新しいデザインによりベッド・ライフの快適さを追求した。



松本 隆志
Takashi Matsumoto

中山ゼミ

Free Variation

L字型のデスクとラックの2つのシンプルなパーツだけで何パターンにも形を変えることができ、使用する目的や用途に合わせてラックを180°回転させることで両方向から使用することができ、デザインも全く違うものにできる。また、部屋の形、環境、置くスペースによって置き方も変えられるのでインテリアとしても楽しめる。とても大変だった。





彌栄 ゆうき
Yuki Mie



加藤ゼミ

灯の木 -ヒノキの突板を使った照明-

タイトルは「灯の木」と書いて「ひのき」と読みます。

私は紙のように薄い木の板で照明を作成しました。

薄い素材ならではの光の透け具合と、ヒノキの木目の美しさを活かせるようにデザインしました。

ヒノキと和紙を貼り合わせたものと、平織りにしたものの2種類の照明で優しい光で周囲を照らします。



森本 真世
Masayo Morimoto



中山ゼミ

休日のための本屋さん

行けばいつも新しい出会い。

わたしにとっての本屋さんはそんなところ。

ただベストセラーランキングを並べるだけでなく、より魅力的な本を掘り出し、お客さんの最良の一冊に出会えるように、様々な工夫や仕掛けがなされている。

だからこそ、本屋さんへ行けば何か面白い出会いがあるという期待がある。

ただ本を見るでもなく眺め、タイトルや装丁に惹かれた本を手取る。開く。読む。また別の本を取る。開く。読む……

そんなゆっくりした時間の流れる本屋さんがあればいいな、と制作しました。



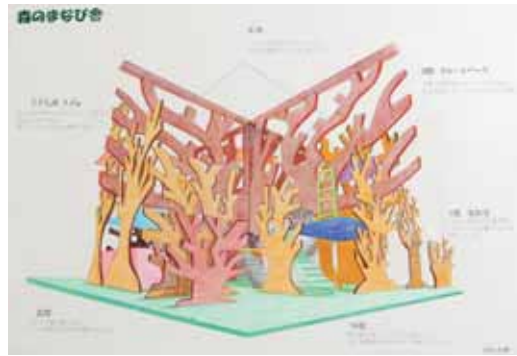


谷内口 由里江
Yurie Yachiguchi

三井田ゼミ

森のまなび舎

都会の中に、白く小さな箱の建物がある。
中に入ると、そこには…
森のような空間が現れた。
ここは、、、 『森のまなび舎』

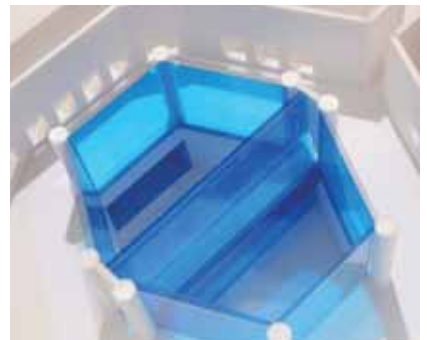
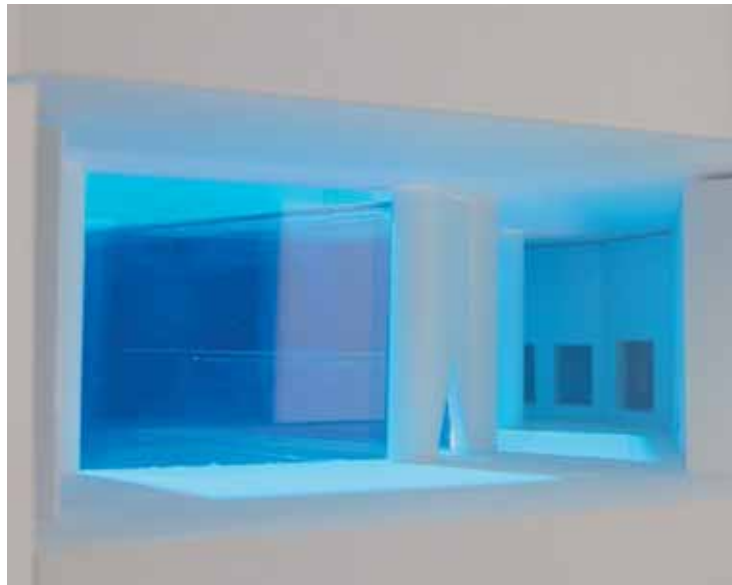


吉村 拓哉
Takuya Yoshimura

中山ゼミ

SEA X SEE

- ・誰もが楽に水槽を見ることができる
- ・水中にいる感覚を作る
- ・ユニバーサルデザインとして作成
- ・水族館を見学の際、車椅子利用者が周りの客に遠慮して前までいけない姿を見て考えた。
- ・海を切り取ったような風景を見る事ができる水槽。





吉村 美和
Miwa Yoshimura



中山ゼミ

視覚障害者に優しい インテリアボード【星の球】

空が好き。星が好き。
夜空を彩る星座が好き。

星座を語りたいと思った。

神話に想いを馳せながら。
古星図や天球図、芸術的観点から。

星座がどんな形をしているのか知ってほしい。

星座の形を知らない人がたくさんいる。
星座は身近なようで遠い。

星座を身近に感じるインテリアボード。



渡辺 健太
Kenta Watanabe



中山ゼミ

Relaxation Bath ~from the universal design~

人によって異なる癒しの空間。
浴室空間は「身も心も癒すことのできる空間」だと感じた。
そこで祖母の家をもとに新しい浴室空間を中心とした浴室・脱衣所・テラスの提案をした。

癒しの空間について考えた。
自然・丸みなどがある空間だと考えた。
そこにゼミでのユニバーサルデザインの考えを加え、新しい浴室空間の提案を行った。

論文 thesis



北田 まみ
Mami Kitada

幼老複合施設の施設計画に関する調査

1.はじめに

幼老複合施設とは、子ども関連施設と高齢者関連施設が合築（併設）された施設のことを指す。高齢者の能力等の社会活用ができる場、また子どもの人間関係の拡大の場として期待されている。

本研究は、幼老複合施設の経緯や現状を把握し、今後の発展に資することを目的とする。

2.調査方法

高齢者施設は入所型とした。入所型は生活範囲が狭域化し交流が限定されやすいと考えたからである。調査対象は、高齢者施設はグループホーム（以下、GH）・特別養護老人ホーム（以下、特養）・高齢者向け優良賃貸住宅（以下、高優賃）、子ども施設は学童保育（以下、学童）・児童館・保育所であり、関西圏の5カ所を選び、アンケート調査と訪問ヒアリング調査を行った。

3.考察

空間接合は大きく5つに分類され¹⁾、うち4つを調査した。自然交流の頻度は混在型と積層型が高かった。積層型は、上部の高齢者施設の違いにより異なる結果となった。自然交流の促進のみで考えると、特養など要介護度が高い高齢者が多い施設は、積層型より別の空間接合が良いのではないかと考えられる。

今回訪問した施設の多くが、計画交流より自然交流を重視している。『H』では、夏休みに毎日かまどでのご飯炊きが行われている。このご飯炊きは、認知症高齢者の残存能力（かまどでご飯が炊けること）を引き出し、子どもに尊敬される機会となり、高齢者のプライドが保持されるきっかけになっている。

訪問した全ての施設で高齢者と子どもの交流は相乗効果があると回答を得たことから、幼老複合施設の存在価値は高いと言える。相乗効果は多世代交流に積極的な高齢者に限られやすいが、交流に消極的な高齢者にも、子どもの声が聞こえることで会話が生まれるという効果がある。生活圏が施設内に限られやすい高齢者にとって子どもの声は良い刺激であることが示唆された。

幼老複合施設で行われるケアは単独ケアに比べて、スタッフの負担が増すと予測していた。唯一「負担がある」と答えた施設は、開設が最も新しい『Y』である。スタッフの負担を軽減するには、時間も必要であると考えられる。また、幼老複合施設にすることで、スタッフも多世代交流ができ、気持ちが安定し、閉鎖的ではなくなるなどの長所もあると伺った。

建設時に地域住民の反対にあった施設は少なくない。認知症高齢者が多い施設は、特に理解を得るのが難しいようだ。地域住民に施設を開放したり、地域貢献の活動を行ったり、施設も色々な工夫を行っている。幼老複合施設の多くが地域を巻き込んで、昔では当たり前だった「地域で育てる・地域で暮らす」ことを施設というかたちで実現させようとしている。多世代交流に取り



組もうとする幼老複合施設は、地域交流の重要性を認識していると感じた。

子ども達が共用リビングで宿題をする時、高齢者が先生役をするのが日課。夏休みは毎日、中庭のかまどでのご飯炊きが行われている。
中庭は、子ども達の遊び場でもあり、高齢者の日光浴の場となっている。また、畑も作られている。

図1.施設『H』の1階平面図

4.まとめ

自然交流を促進するため、各施設では様々な計画交流が行われている。建築計画だけでなく、施設側の働きかけが重要であることが理解できた。スタッフには専門外の知識も問われるため、負担は少なくはないが、時間の経過と共に負担の減少が見られた。何より全ての施設で高齢者・子ども双方に効果が見られるという指摘は大きな意味を持つ。

また、幼老複合施設の多くが、地域交流の重要性を認識しており、様々な取り組みを実践し、地域コミュニティの核となり得る可能性も示しているものとする

1) 浅沼由紀：『高齢者複合施設』、市ヶ谷出版社、2002年

表1 調査結果一覧表

施設名	H	F	M	S	Y
所在地	三重県桑名市	滋賀県東近江市	京都府京都市	大阪府吹田市	京都府京都市
開設年度	2001年	2001年	2000年	2006年	2010年
施設分類	高齢者 GH 子ども 学童	GH 学童	特養 児童館	高優賃 保育所	GH 学童
計画交流の頻度	年12回	年2回	年8回	年12~24回	年24回
自然交流の頻度	よくある	たまにある	あまりない	よくある	たまにある
相乗効果	ある	少しある	少しある	少しある	ある
高齢者	ある	少しある	ある	少しある	ある
子ども	ある	少しある	ある	少しある	ある
スタッフの負担	ない	ない	少しある・あまりない	あまりない	ある
空間接合	混在	並列	積層	積層	分棟
空間接合の図					

表2 各施設の地域交流の内容

施設	地域交流の内容
H	防犯パトロール ^{※1}
F	学童スペースでのあったかホーム ^{※2} 夏祭り等への招待
M	地域住民にレストラン開放 会議室の貸し出し
S	保育所での子育て支援
Y	夏祭り等への招待 月1回発行の新聞を自治会に配布

※1 散歩ついでに防犯パトロール。自治会から腕章をもらい、地域住民から感謝をされるようになった。また、町ぐるみで防犯に努めるきっかけにもなった。

※2 毎週水曜日、学童スペース地域住民に開放している。入居者や保育所の子どもと交流したり、おしゃべりを楽しんだり、お昼ご飯を一緒に食べる。



「就職活動時におけるネクタイの評価性について」

1.はじめに

近年、厳しい競争社会の中、就職活動を始める多くの学生は自分をよりアピールするためマニュアル本などで情報を取得、交換している。本研究では就職活動時におけるネクタイの評価性について、学生側の意識と企業側の調査に基づき、就職活動時における適切度合の高いネクタイを提案する。

2.調査方法

＜学生に対するネクタイのアンケート調査＞

就職活動をした学生または、これからする学生40名に面接時に適切と思うネクタイの色・柄・形について調査した。

＜企業に対するネクタイのアンケート調査＞

学生の受け入れ側である企業の採用担当20社に学生が身につけるネクタイをどのように見て評価しているのか調査した。

3.アンケート調査結果

本研究ではネクタイを70%の企業が判断材料としておりネクタイが重要なアイテムの一つとして扱われていることが明らかになった。さらに、企業・学生ともに青系のストライプ柄のレギュラータイというデザインのネクタイの適切度合が高く認識された。しかし、青系のネクタイは周りの学生も多く身につけている色であるので70%の企業が判断材料としているのであれば、周りとは違う色を身につける方がより自分をアピールできるのではないかと考えられる。

また、柄についてはペイズリー柄を除いてそれほど差がみられず、形についてもカットタイ、角タイ、ワイドタイを除いてあまり差が見られなかった。

以上の結果から色の違いによる影響は大きく、柄や形による影響はそれほどみられないことが明らかになった。色の違いが就職活動時におけるネクタイの評価性に与える影響が高いことから、周りの就職活動生よりアピールすることができる青系以外の色のネクタイを提案することにした。

4.評価性の高いネクタイの提案

本研究で提案するネクタイの色は、実際に学生が就職活動で使用していたネクタイを、Adobe Photoshop Elements 5.0を使用し、アンケート結果に基づき3番目に適切度合の高い茶系の色相に加工を施したものにす。 (2番目に適切度合の高い赤系はカイ2乗検定の結果n.s.だったため除外)

加工を施す時の色は、MINOLTA分光測色計CM-1000を用いて測定を行ったネクタイの色を参考にする。

実際に就職活動で使用していたネクタイの中で茶系の2本のネクタイ、(R=110 G=54 B=43)と(R=85 G=61 B=57)の平均値(R=98 G=58 B=50)にする。柄の違いはそれほどみられないことから適切度合の最も高いストライプにする。学生が実際に使用していたストライプ柄のネクタイをストライプの幅、間隔で系統をたてた。形はレギュラータイからナロータイまでの太さにする。スーツの色は青みを帯びた黒、ネクタイの結び方はセミウインザーノットで統一する。

以上の条件で6本のネクタイを作成し、実験試料とした。

6.一対比較

6本の試料を順位付けするためにシエッフエの一対比較の変法⁴⁾を行った。

①実験対象

就職活動に携わっている大学内のキャリアセンター、学生支援センター、教職支援センターの人 男・女合計人数=9人(n=9)

②実験内容

6本のネクタイの写真試料を2つずつ見せ左のネクタイに比べ右のネクタイがどのくらい適切に見えるかについて調査を行った。実験場所は北窓であるC棟1階のラウンジで11時～15時の間で行った。

＜一対比較実験による試料の適切度合順位＞

一対比較実験により6本のネクタイの適切度合順位はヤードスティック(Y)信頼区間(0.01%および0.05%)に基づき判定した結果をまとめると最も適切と判断されたのは図5の提案③のネクタイであった。

7.結論

本研究では就職活動時におけるネクタイの評価性について、就職活動を行う学生側の認識と受け入れ側である企業の認識調査をし、就職活動で評価性の高いリクルートスーツ時のネクタイの提案を目的とした。

- 1) ネクタイの色・柄・形が企業の採用における判断材料の一つとなっている企業が全体の70%あることから、評価性の高いネクタイを身につけることは就職活動時において重要であることが明らかになった。
- 2) 企業の適切度合の高いネクタイはマニュアル本にある色は青系、柄はストライプ、形はレギュラータイであったものの、柄・形においては差があまり見られなかった。しかし、色の違いが就職活動時におけるネクタイの評価性に与える影響が大きかったことが明らかになった。そこで、就職活動時に青系のネクタイを身につける学生が多い中、周りの学生とは色の異なるネクタイを身につけることが自分をよりアピールできると考え、企業の適切度合が3番目に高い茶系のネクタイを提案した。
- 3) 6本の試料の提案の中で一対比較実験から最も適切度合が高い試料は、ストライプの幅が太めで色が青みのかかったデザインのネクタイであった。

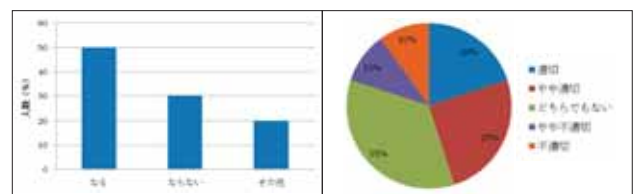


図1 ネクタイが判断材料になるかについて

図2 「茶系」における適切度合(企業)

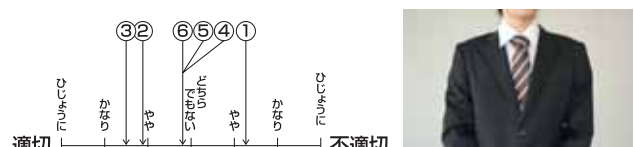


図3 主効果評定値の尺度図

図4 提案③



内田 庸介
Yosuke Uchida

水の空間演出に関する事例研究

I. はじめに

本研究に取り組むきっかけは、私が初めて安藤忠雄の作品「水の教会」を見たとき、その神秘的な空間演出にとっても感動したことである。建物を水際に配置することで、静かな水面に建物や景色を映しだして演出する「水鏡」という手法は、平等院鳳凰堂などに代表されるように、古来より見られる。水は人の心にどのような影響を与えるのか。現代の建築空間における様々な水の空間演出の事例を調査し、人が感じるイメージについて分析する。

II. 研究方法

1. 文献調査: 新建築(2008年・2009年・2010年)および商店建築(2009年・2010年)に掲載された、建築物に水空間を取り入れた作品を対象とした。

2. 水の空間演出事例に対するSD法を用いた主観評価(被験者実験): 本学学生(男性10人, 19歳~23歳, 女性10人, 20歳~22歳)の計20名を対象とした。

水の教会および文献調査の対象事例より選定した3作品の計4作品について、Photoshop Elements 6.0により、水の部分を芝とコンクリートにそれぞれ加工したものを加えた計12枚の写真を評価対象とした。SD法評価には、風景や建築などに対する印象に関する文献を参考に20対の形容詞を選定し、評定尺度は、-3から+3までの7段階とした。

調査時期: 2011年1月

III. 結果・考察

1. 文献調査における空間演出72事例の演出手法の多くは、「水盤」であり、地面と水平な面として計画される事例が大半を占めた。建築と水の構成手法に着目し、塙ら¹⁾による建築物と水空間による分類方法をもとに事例を分類したところ、「建築物と水空間に介在するものが無く直接的に接して、水空間が建築物の横にあり、水平である事例」が最も多く、既往研究と同様の傾向であった。

2. 被験者実験では、「人工(コンクリート)」に比べて「水」「自然(芝)」の評価が全体的に高く、特に、「潤った」「神秘的な」「上品な」等の項目が顕著であった。一例として水の教会におけるSD法評価平均値プロフィールを示す(図1)。

3. 建築物の構成材料がコンクリート系の場合や、夜間において水面に照明の反射が演出される場合において、水空間が高く評価される傾向があった。

4. 被験者の評価得点より相関行列を求め、因子分析を行ったと

ころ、4つの因子が抽出された。第1因子は「楽しい」・「好きな」・「行きたい」・「快適な」・「安らぎのある」・「生き生きとした」・「親しみやすい」・「温かい」、第2因子は「明るい」・「さわやかな」・「軽い」・「開放的な」・「柔らかい」・「自然的な」、第3因子は「上品な」・「神秘的な」・「潤った」・「美しい」、第4因子は「変化のある」・「動的な」であった。

5. 二つの因子の組み合わせによる散布図を作成し、水空間のある建築事例の位置を分析したところ、美的印象因子において評価が高く、「自然(芝)」、「人工(コンクリート)」の順に評価が下がる傾向が認められた。水空間には人の美的感覚に作用し、感動を与える効果があるのではないかと考えられた(図2)。

文献

塙貴宏他: 建築と水の空間構成に関する研究—その2 平面・断面構成について—, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.965-966, 日本建築学会(2001.9)

【謝辞】

アンケート調査にご協力頂いた学生の皆様、統計処理に関してご指導頂いた大手前大学酒井健先生に感謝申し上げます。



図1

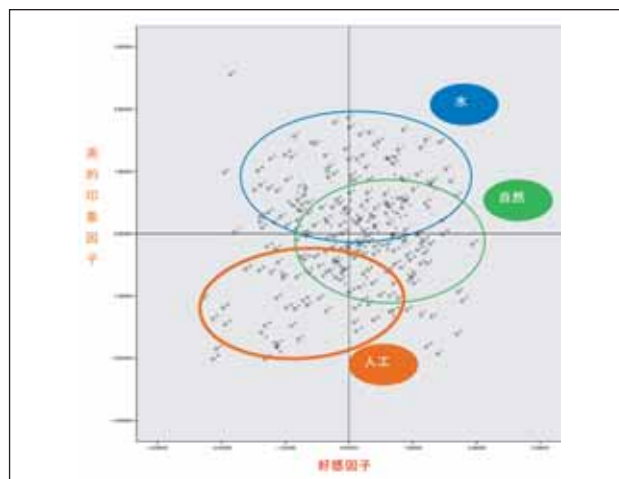


図2

佐藤ゼミ

垣原 雅人
Masato Kakihara



高田 顕寛
Akihiro Takada



LED照明の分光スペクトルと演色性に関する研究

I. はじめに

LEDは、今日では様々な用途に使用され、蛍光灯や白熱電球に置き換わる光源として大いに期待されている。しかし、LEDは演色性の低さが指摘されている。そこで、本研究は、調光(光量、異なる色光の混合)可能なLEDの特徴をとらえ、色光の異なる4種の単独LEDと、2種LEDの組み合わせ光源の演色性について検討する。そして、日常生活や商品展示における光源の演色性、すなわち、色の見え方の問題点を検証することを目的とする。

II. 研究方法

1. LEDと照明空間

青色LEDとYAG蛍光体による4種の白色LEDを用いた。これらのLEDは直管型で光色が異なるものである。以後LED1、LED2、LED3およびLED4と称す。

外部光源の影響を遮断するため、研究室の半分をN5.5の灰色積層布(Gore-Tex)で覆い、暗室とし、標準光源装置(Gretag Macbeth社 The judge II)(開口550mm, 奥行490mm, 天井高さ570mm)の空間を利用して、照明環境とした。なお、JISで定義する基準光源には、標準光源装置に設備する白熱電球Aと蛍光灯DAYを用いた。

2. 演色性評価のためのカラーカード

演色性評価のためのカラーカードは、JIS準拠管理色票と新建築デザイン色票の中から、JISZ8726に近似する1~15色を分光反射率計測に基づき選び用いた。

3. 一定照度条件でのカラーカードの分光放射輝度の測定

照度は、色彩照度計CL-200(KONICA MINOLTA)により計測した。調光した一定照度(1000lx)の下で、カラーカードの分光放射輝度を分光放射輝度計PR655(PHOTO RESEARCH)により測定した。

4. 演色性の計測と算出

演色性は基準光源として、AおよびDAYを用い、JISZ8726 1990に基づき計測、算出した。

III. 結果と結論

1. LED1, LED2, LED3およびLED4の相関色温度は、それぞれ、5178K, 5955K, 3654Kおよび2808Kであった。それらのLED2種の組み合わせによって、分光放射輝度分布ならびに相関色温度、また、その色度点は、それぞれの2つのLEDを結ぶ直線の間中にプロットされ2つのLEDの調光の効果が認められた。予想通りの結果が得られ、調光しているいろな

色光を得られることがわかった。LED1とLED4のそれぞれ単独、組み合わせによる分光特性を図1に示す。

2. LED1とLED2の組み合わせ照明が最も演色性が高いということが明らかになった。

3. いずれのLEDもカラーカードNo.9(鮮やかな赤)の演色性が低い。それは、LEDの発光原理から、LED色光には長波長のスペクトル成分が低いためと考えられる。展示照明としてLEDを使用する場合には注意が必要である。LED1などのような色温度の高い白色LEDには、LED4などの色温度の低いものとの調光による改善が予想される。その例を、図2,3に示す。

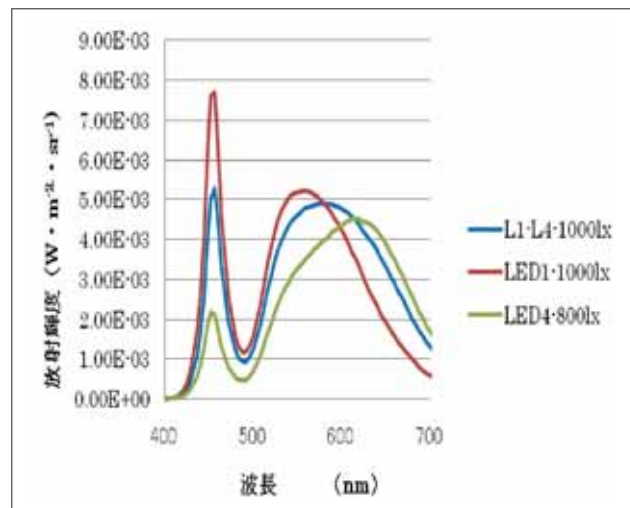


図1 LED1,LED4,LED1/LED4の分光スペクトル



図2 LED1



図3 LED1/LED4



木田 尚子
Shoko Kida



山本 咲
Saki Yamamoto

味覚表現における色彩について ～レトルトカレーを例に挙げて～

1.はじめに

市販レトルトカレーのパッケージデザインにおける辛味度の表現は、「甘口・中辛・辛口」の3種類に揃っている。また、パッケージの主張色として使用されている色は近似している。しかし、辛味度の表現とパッケージの主張色には、各社ごとに異なる色表現がみられることから、消費者に混乱を招かれることは否めない。

そこで、本研究は色を有効に活用し、味のジャンルの識別を共通簡便化させ、物選びの利便性に繋げることを目的とし、8色に色分けしたレトルトカレーのパッケージを試料とし、色彩が辛味度の表現に及ぼす影響について検討した。

2.実験Ⅰ

【試料作製】

市販のレトルトカレーの色から、数多く用いられているパッケージ7種類(赤(R)・オレンジ(O)・黄(Y)・緑(G)・青(B)・白(W)・黒(Bk))を選択し、MINOLTA分光測色計CM-1000により色の測定をした。そこから、近似色をAdobe Illustratorにより再現し、普通紙にEPSON offirio LP-S7000Iによって印刷し、市販の物で一番多くみられた165×130×23の箱に貼り付けた。また、アンケート調査で回答の多かったピンク色(Pi)も試料に取り入れ、8種類の色を試料とした。

レトルトカレーであることを被験者に意識してもらうため、白紙に黒色で「カレー」と表記された紙(30×80、HGP創英角ポップ体)を箱の中央に貼り付けた。

【被験者】

8色の試料を用い、20歳以上の男女各30人を対象に、レトルトカレーのパッケージに対するそれぞれイメージについて選択してもらった。

【結果】

〈辛口〉では、全体をみて赤色がほとんどを占める結果となった。男性は黒色も多く挙げた。

〈中辛〉では、男女とも、オレンジ色が多くを占める結果となったが、男性は緑色の評価が多く、市場で流通している市販のパッケージの中辛に最も多く緑色を使用されていることに近似した結果となった(図2、図3)。

〈甘口〉では、女性はピンク色が半数を占めていたが、男性は黄色や、オレンジ色のように内容物の色を意識して判断されるということがわかった(図4、図5)。



図1 作製した8色の試料

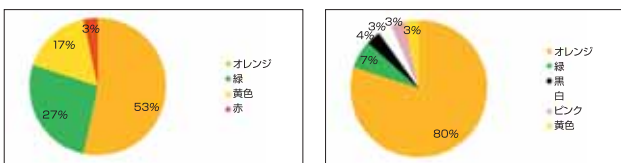


図2 レトルトカレーの色彩イメージ(中辛) 男性N=30

図3 レトルトカレーの色彩イメージ(中辛) 女性N=30

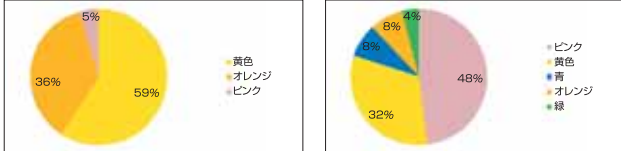


図4 レトルトカレーの色彩イメージ(甘口) 男性N=30

図5 レトルトカレーの色彩イメージ(甘口) 女性N=30

3.実験Ⅱ

実験Ⅰの結果から8色の試料を順位付けするために一対比較を行った。その際、「中辛ー中辛でない」は対語として難しいため、評価項目から外した。レトルトカレーで使用されている辛味度の表現および、実験Ⅰで用いた8色の試料を見たときに感じる感性実験を行った。感性量を「ひじょうに・かなり・やや・どちらでもない」の4段階で評価してもらった。試料間の差を明確にするため、2つの評価項目「辛いー辛くない」「甘いー甘くない」に対して、シェッフェの一対比較を用いて大学生男女各15人ずつに被験者実験を行った。判定は「左に比べて右がどのように見えるか」右について〈辛い〉〈甘い〉の質問に回答を求めた。

【結果】

「辛いー辛くない」では男女どちらも赤色が最も辛いと識別された。反対に辛くないとされた色が青色と白色であった。黒色、オレンジ色、緑色、黄色は男女でばらつきが見られた。男性の結果で、緑色がOに近い数値になったが、女性では、青色、白色に次いで辛くない色という結果になった。また、黒色においては、男性、女性でそれぞれにばらつきが出た。「甘いー甘くない」ではピンク色、白色が男女共に一番甘い色であった。反対に甘くない色は赤色、黒色で同じ結果となった。黄色、オレンジ色、緑色は近似していた。青色については、女性が男性に比べ、甘くないに少し偏る結果になった(図8)。

4.まとめ

〈辛口〉では、赤色、黒色と市販のパッケージの主張色と近似した結果となった。

〈甘口〉では、一対比較において、ピンク色が一番甘いと評価された。しかし、実験Ⅰの結果ではピンク色ではなく、黄色であった。このことから、ピンク色は甘さを連想させる色ではあるが、レトルトカレーと結び付けて考えることが困難である。ただし、女性はレトルトカレーとピンク色を結び付けることができたことから女性向けに甘口のパッケージの主張色をピンク色にすることを提案する。

〈中辛〉では、市販のレトルトカレーのパッケージにおいてばらつきが多く見られた。実験Ⅰの結果より、オレンジ色が一番被験者の色彩イメージとし、市販のレトルトカレーとはギャップが見られた。

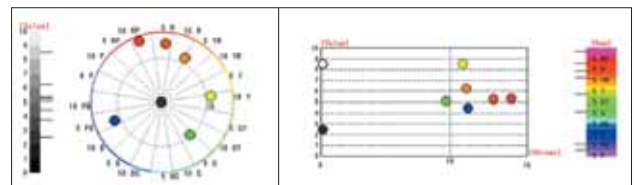


図6 試料の色相環における分布図

図7 試料の明度および彩度における分布図

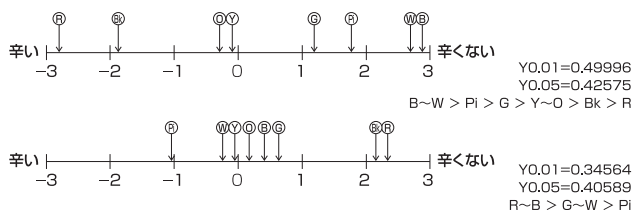


図8 主効果評定値尺度図(全体)

金敷ゼミ

牛房 誠也
Seiya Gobo



坂口 光亮
Kosuke Sakaguchi



鈴木 貴大
Takahiro Suzuki



玉入れ課題の技能の熟達におけるメタ認知についての実証的研究

本研究は玉入れ課題の遂行による技術の熟達を通して、手続き的記憶についてのメタ認知の認知過程を明らかにすることを目的として行われた。

論文著者である男性3名によって行われ、実験は屋外で行われた。直径約7cmのビニールボールを30球、直径22cm・高さ32cmのバケツの中に9.5cmの距離から投げ入れる課題用の環境で、時間の計測はストップウォッチを用いて行われた。

実験結果より、牛房誠也において見て取れるのは、個数の実測値および満足度との関係、そして遂行時間の予測値および実測値の2つの関係であった。コントロールに対するメタ認知的モニタリングの変化では、課題遂行に関するメタ認知モニタリングは行わずに、自らの感情的側面および動機づけの側面に対するメタ認知モニタリングを行っていたと思われる。個数の予測値を途中まで変えずに、個数の実測値に基づいて満足度を評価している点から考えると、個数の実測値と満足度との間に自らの感情的側面および動機づけの側面の表象という変数が介在しているように思える。(Fig. 1a)坂口光亮において見て取れるのは、個数の予測値と実測値の関係、個数の予測値と満足度との関係、個数の実測値と満足度との関係、遂行時間の予測値と実測値の関係の4つの関係であった。コントロールに対するメタ認知的モニタリングの変化では、前試行の個数の実測値から次試行の個数の予測値を見積もっていることから明らかに、メタ認知的モニタリングにおいて表象が細かく、1試行ごとに細部をコントロールするよう方向づけるメタ認知的モニタリングを行っていた。それ故、記述データとしてとして表現されているレベルにおいては一貫性があまりみられなかった。(Fig. 1b)鈴木貴大において見て取れるのは、個数の予測値と実測値との関係、個数の予測値と満足度との関係、個数の実測値と満足度の関係、遂行時間の予測値と実測値との関係の4つの関係であった。コントロールに対するメタ認知的モニタリングの変化では、メタ認知的モニタリングにおいて用いられる表象が、自らの競技経験からの類推であったといえる。彼は、投げ方の“良い感覚”(本人の表象)をつかむようメタ認知コントロールを行おうとしており、その関係でメタ認知的モニタリングをおこなっていたように思われる。“良い感覚”という手がかり情報を求め、成績よりも、自らの身体感覚における手がかり情報をモニターすることを優先させていたようだ。(Fig. 1c)

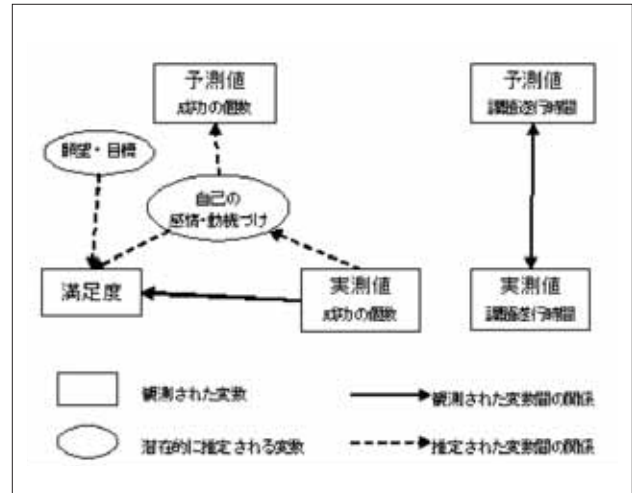


Fig 1a. 牛房誠也のメタ認知モデル

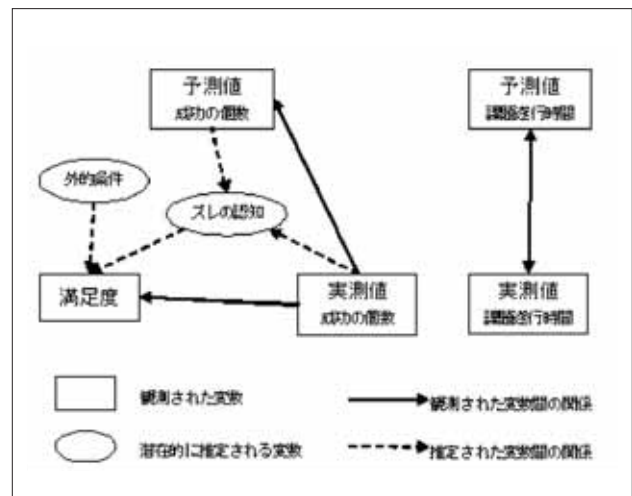


Fig 1b. 坂口光亮のメタ認知モデル

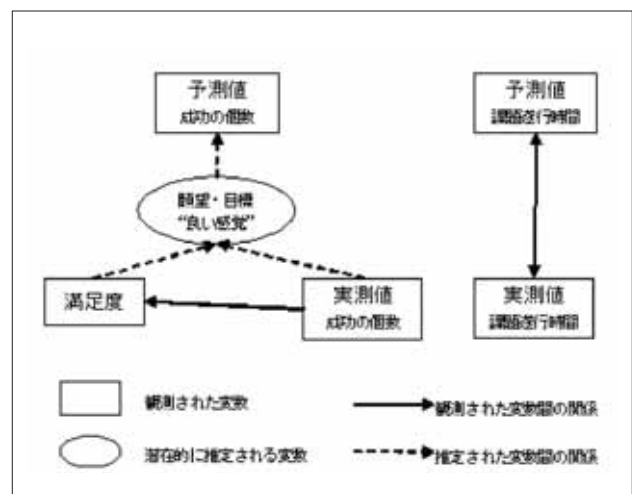
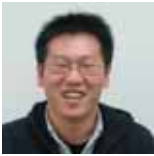


Fig 1c. 鈴木貴大のメタ認知モデル



松島 逸人
Hayato Matsushima

大阪市の「児童いきいき放課後事業」に関する調査研究

1. はじめに

1992年から大阪市では「児童放課後いきいき事業」¹⁾(以下、『いきいき』と略す)を実施している。2007年に放課後子どもプランがスタートし、現在はそれに基づき全小学校で実施されている。本研究は、『いきいき』の実態を把握し、今後の発展に資することを目的とする。

2. 研究方法

全『いきいき』に郵送調査を実施(全296校中、返答は217校。回収率は73.3%)し、その中から学校規模別に6校の『いきいき』およびK町の学童保育へのヒアリング調査を行った。

3. 郵送調査結果

開設場所は、小学校の空き教室が最も多い。教室は1教室が過半数を占め、その中で最大の登録人数は438人、最大の平日の平均参加者は129人で、1人当たりの面積は0.51m²と過密状態が推測される。

『いきいき』は地域交流を図ることが目的とされているが、実際には、地域交流は「なし」との回答が最も多く、今後の課題となっていることが示唆される。

4. 訪問ヒアリング調査

事例 M²⁾

事務所と宿題等静かな活動を行う部屋、活動的な部屋に分かれ、訪問中最も良い環境であった。長期休暇のみ午睡、おやつがあった。



静かな活動の活動室内部

事例 D²⁾

活動室は4階。『いきいきクラブ』²⁾の認定を受けているが、補助金は支弁されていないとのこと。年間活動計画書が作成されていない。地域指導員の確保が課題であるとのことであった。

事例 S

児童数の増加で空き教室がなく、校庭のプレハブが活動場所。訪問時(夏休み)、全員が机に向かって食事することもできず、クーラーはあるものの人数に対応しておらず蒸し風呂状態であった。要支援児が多いが、おむつ替えの場所もない。



活動室外観

小学校の規模別に6カ所を対象としてヒアリング調査を行った。参加児童数は、必ずしも小学校の規模とは比例しておらず、参加

児童数の増加に伴い、活動室の狭さ等の問題に直面していると言える。また、体育館の利用は、PTAや地域が優先であり、雨の日に体育館が使えないことが困るという意見が共通していた。親の教育力が低下していることも共通して挙げられていた事柄である。

先述した『いきいきクラブ』以外の3校においても、毎日利用する児童の大半が留守家庭児童であるという。そこで、留守家庭児童を対象とするK町の学童保育所と比較してみることにする。

K町にある学童保育所4箇所の立地状態は様々であったが、空き教室を利用した学童では、3教室分を改装し、静かな活動のための2部屋と、廊下側の壁を撤去し、動きのある活動のための部屋として使っていた。独立したトイレもあり、小学校の出入り口と動線上重ならない工夫が見られた。学校と同じ敷地内にある学童では、学校生活からの区切りをつけるため、玄関、トイレが独立し、狭いながらも独立した遊び場を有していた。また、おやつや昼食作りのために台所が設置され、生活活動面における社会教育が重視されている。保護者との関わりも密接で、迎え時に顔を合わせるとともに連絡帳の交換、月1回の保護者会の開催、キャンプ等の学童行事への保護者の参加等、保護者との連携が見られる。

長期休暇(夏休み)の1日の流れを図4に示す。『いきいき』では、外遊び(体育館を含む)の時間帯が明確に決められていた。安全確認上、指導員を分離配置のするため必要があるとの説明があった。活動室が2階以上の場合も、1階の場合でも同様であった。

5. まとめ

以上の事柄から、いくつかの課題が把握できた。第一には、参加人数に見合った活動場所の確保である。第二には、参加者の多くを占める留守家庭児童に対する生活の場を保障することである。少なくとも専用室と専用指導員の確保は必要であると考えられる。第三には、地域交流の活性化である。まず、地域住民の一員である保護者との関係、保護者同士の連携に取り組むことが可能ではないかと考える。

現状のシステムにおいて実現が困難であるならば、『いきいき』の位置づけを遊びの場、学習の場に限定して捉えることも解決方法であるかもしれない。



K学童保育の動きのある活動室



M学童保育専用グラウンド

表1 平均参加人数(平日、長期休暇)

平均参加人数	平日		長期休暇
	平日	長期休暇	
19人以下	0.9	3.7	
20~39人	19	24.2	
40~59人	31.5	27.9	
60~79人	19.4	20.9	
80~99人	18.5	15.8	
100~119人	7.4	4.2	
120人以上	3.3	3.3	

表2 最も困ったこと

最も困っていること	割合
指導員の確保	9.8
活動室が狭い	31.7
基準の厳しさ	4.1
活動場所	8.9
活動内容	11.4
児童の多さ	11.4
施設準備	24.4
年間設備運営費	11.4
給料の低さ	2.4
その他	23.6

表3 地域との連携

地域との連携	割合
老人会	17.8
地域の方	14.6
いきいきパートナー	13.1
はぐくみネット	4.7
児童館	1.4
その他	27.2
なし	33.3

表6 調査対象事業者の概要

学校名	M	D	S	Q	No	Na	Nb
全校児童数(調査日)	883(2)	586(2)	476(2)	365(2)	205(2)	100(1)	50(1)
平均参加人数(平日)	55/83	65/50	90/135	30/60	55/30	25/15	
地域交流	市民会への参加	なし	老人会とグラウンドゴルフ	なし	なし	なし	児童館(大会)・自治会(大会)
設置階層	1階	4階	校庭	1階	3階	2階	
開設場所	空き教室	空き教室	プレハブ	空き教室	空き教室	多目的室	
開設面積(㎡)	3(200㎡)	23(140㎡)	2(128㎡)	15(34㎡)	15(94㎡)	2(128㎡)	

*1 大規模(全校児童数500人以上) 中規模(全校児童数300人以上500人未満) 小規模(全校児童数300人以下)と規定した。
*2 平日の平均参加人数/夏休みの平均参加人数とする。

表4 開設場所

地域との連携	割合(%)
空き教室	70.1
独立専用施設	9.3
特別教室	16.4
その他	4.2

表5 開設場所数

開設場所数	割合(%)
1教室	53.5
1.5教室	9.5
2教室	30.0
2.5教室以上	7.0

1) 『いきいき』は、全児童を対象に週6日実施。平日は14~18時、土曜および長期休業日は8時半~18時に開設。利用料は無料である。

2) 専用室が確保され国基準を満たすものとして学童保育として国庫補助が支弁されている。23校中3校訪問したが、国庫補助の支弁は受けていないとのことであり、部屋や指導員の特定もされていない。そもそも、学童保育所としての認識は極めて希薄であった。

図1 『いきいき』と「K町の学童保育」の活動内容の比較※



※ 『いきいき』、「K町学童保育」それぞれ一例を示す

村岡 大希
Daiki Muraoka



高齢者向け優良賃貸住宅の入居者の生活に関するケーススタディ

1.はじめに

1998年にスタートした高齢者優良賃貸住宅(以下、高優賃と略す)は、高齢者が安心して生活できる住宅であり、入居者への家賃補助とともに建設費への補助金も交付される。

本研究は大阪府の高優賃を対象に実態を把握する中で、今後のあり方に資することを目的とする。

2.研究方法

3カ所の高優賃を訪問し、管理者にヒアリング調査を行うと同時に、入居者へのアンケート調査を実施した。

3.考察

訪問した3カ所の高優賃は、ともに管理人が常駐しないもので、管理会社の担当者が月に1回程度巡回に廻っていた。立地の面では、高優賃E(以下『E』と略す)・Gは至便な場所で商業施設も多く、『F』は最寄り駅から徒歩20分程度かかり、商業施設もない。

共用空間は、『E』は1階玄関横にあり、普段はカギがかかっているが、入居者がそれぞれにカギを持っている。昔はここでお茶会を開いていたようだが、今はあまり使われていない。『F』は、常時開放型であり1階にある。最近月に1度の集まりを持ち始めたそうである。『G』は、2階の1住戸分を割り当てている。廊下に面する壁はガラス張り、開放的ではある。テレビやソファ、観葉植物はオーナーが設置した物である。

<入居者へのアンケート調査結果>

昨年度実施した4施設84人に、今年度の3施設47人分を加え、考察することとする。

調査対象入居者は、女性および後期高齢者の割合が高い。夫婦入居もいるが独居が7割を超える。

入居理由については「家賃補助がある」「バリアフリーが魅力的」と高優賃の特徴を評価する理由が上位にきている。

施設毎の居室の評価をみると、ばらつきが激しい。現在の入居の形態別に見ると、独居に比べ夫婦入居の満足度が低いことから、居室面積に関わるのではないかと推察される。共用空間の利用頻度は、開放型に比べ、閉鎖型、中間型は利用度が低い。開放型の施設Gは、共用空間が2階に位置し、意識的に2階に立ち寄ることを要求されるため利用度が低いものと考えられる。また、共用空間のタイプ分類とは別に、サークル活動等が活発な施設では利用度は高い。

高優賃内の友人の有無では性差が大きく、男性は女性よりも「友人なし」との回答が多い。

困った時に頼る相手としては、子どもを含む親族がもっとも多く、次いで管理人、LSAの割合も高い。管理人の常駐しない

高優賃E・F・Gでは、月1回巡回する管理会社の人や誰もいないという回答も多い。

入居している高優賃に対する満足度を目的変数として数量化I類による分析を行った。結果を表2に示す。満足度にもっとも寄与している項目は、各高優賃であり、ついで居室への満足度であった。各高優賃のカテゴリスコアを見ると、もっとも満足度の高い高優賃Aは、管理人に加えLSAが常駐している。1階にある共用空間ではサークル活動が活発だが、参加の声かけにもLSAが大きく関わっているという。次いで満足度の高い高優賃Dは、やはり管理人が常駐する。その管理人は社会福祉法人の職員であり、高齢者に関する専門家である。管理人等が常駐しない高優賃E・F・Gは、満足度の下位3位に当たる。もっとも満足度の低い高優賃Eのアンケート自由記述欄を見ると、緊急通報装置への不満が多い。当初、通報は提携病院に繋がっていたが、現在はどこにも繋がっていない状況にあるという。

4.まとめ

高優賃は、バリアフリーや緊急通報装置が義務づけられ、安心な住宅という位置づけであるが、例えば緊急時の対応は個別の高優賃によって異なる。装置を設置しているだけでは緊急対応サービスにはならず、きちんとした対応が求められる。また、高優賃での日常的な生活に関して、管理人やLSAの配備等、人的サポートが果たす役割が大きいことが示唆された。

	全戸数	管理主体	データ数	管理人	常駐の程度	LSA	共用空間の区分
A	52戸	民間企業	40件	○	9時~17時	○	独立型・開放型
B	40戸	民間企業	20件	○	8時~12時	×	並列型・閉鎖型
C	24戸	福祉法人	11件	○	24時間	○	並列型・開放型
D	14戸	福祉法人	13件	○	9時~18時	×	囲み型・開放型
E	19戸	民間企業	13件	×		×	並列型・中間型
F	24戸	民間企業	18件	×		×	並列型・開放型
G	35戸	民間企業	16件	×		×	並列型・開放型

表1 調査対象高優賃の概要

カテゴリー	高優賃の満足度				
	N	カテゴリスコア	レンジ	偏相関係数	
性別	男性	30	0.19417	0.2679	0.142
	女性	79	-0.07373		
年齢	75歳未満	39	0.03852	0.0444	0.028
	75~84歳	70	-0.01589		
入居形態	独居	78	0.02089	0.0735	0.0428
	夫婦	31	0.05257		
身体状況	自立	73	0.01139	0.0345	0.0216
	それ以外	36	-0.02311		
友人の有無	有	84	0.00776	0.0339	0.0172
	無	25	-0.02608		
部屋の評価	まあ良い以上	75	0.21247	0.6812	0.3746
	普通以下	34	-0.46863		
高優賃	A	37	0.49484	1.1939	0.4885
	B	16	-0.29597		
	C	10	-0.00705		
	D	13	0.35028		
	E	7	-0.69907		
	F	13	-0.56157		
	G	13	-0.45101		

表2 高優賃に対する主観的満足度の数量化I類による計算結果

制作風景



卒業作品・研究展覧会



会 場：奈良市ならまちセンター 企画展示ギャラリー ほか

会 期：2011年 2月19日(土) 9:30~19:00 ・ 20日(日) 9:00~16:00



学長賞
鈴木勇輝

優秀賞
北田まみ
清水祐希
高田亜理佐
蓮見彩衣

畿央大学

健康科学部 人間環境デザイン学科

第5回 卒業研究講評会

全体講評会：2月14日 10:00～16:00

選抜講評会：2月15日 14:30～18:30

会 場：畿央大学 L101教室

選抜発表者：浅野 領太

牛窓 未穂

大田真由美

垣原雅人・高田 顕寛

北田まみ

北村英久

北山明日香

桐山翔平

小松美保子・三浦 剛

清水祐希

鈴木勇輝

高田亜理佐

高橋彩子

田村昌敬・福田 守・山本 孝

仲谷 彬

蓮見彩衣

藤飯ゆりか

松島逸人

彌栄ゆうき

谷内口由里江

講評

諸君は、大学で学んできたことの集大成として、満足できる成果を卒業制作や卒業研究にこめることができたでしょうか。手を胸にあてて、考えてみてほしい。一部には、われわれ教員の予想を上回る頑張りを見せてくれた人もいます。しかし、多くの諸君は不完全燃焼のままに終わっているのではないだろうか。私の見るところ、君たちの実力はこんなものではないはずだ。

この作品集は君たちの本棚の片隅においてほしい。そして、時には手にとってほしい。ここには、君たちのものづくりに対する出発点がある。きっと、原点に立ち返って、頑張る力を与えてくれるはずだ。

大学を卒業して、社会に出てから、君たちの本当の正価が問われる。われわれ教員も応援している。君たちも本気を見せてほしい。

三井田 康記

人間環境デザイン学科 学科長

私の畿央大学への赴任と皆さんの入学は同時で、かつ1回生から3回生までクラス担任を受け持っていたこともあり、この学年は、ことさら思いの深い学年です。入学直後のガイダンスで教室が分からず、一緒に同じように右往左往していました。研修旅行の白川郷では4月の寒さに震えましたね。4年前のことなのに、今でもはっきり思い出します。仲の良い学年だったと思います。これからは、別々の道を歩いていくのですね。

さて、卒業研究です。1年以上前から、テーマを決め、地道にコツコツ取り組んでいった人もいます。一方、直前の集中力のみで完成した人もいます。制作の場合は、できあがった作品が全てですから、作品が良ければOKなのですが、それにしても思うケースもありました。4年間の集大成としての卒業研究をやり終えて、今、どのような思いですか？入賞の有無に関わらず、満足感を感じられるかどうかで判断して下さい。選択したテーマと方法によっては、思ったような結果が得られなかった場合もあるでしょう。しかし、本当の価値は、自分自身のやりきったという満足感より他にないと確信します。

社会人になっても、たまには大学に顔を出して下さい。成長した皆さんに再会できることを楽しみにしています。

斉藤 功子

人間環境デザイン学科 主任

人間環境デザイン学科が掲げる教育内容は、非常に広範囲の分野にまたがっていて、そして「ヒトの生活」にとって大変重要なことが一杯詰まっています。皆さん1人1人がテーマとして取り組まれた内容は、まさしく学科が取り組むべき、そして提供してきた4年間の教育成果だったと考えています。環境と環境の再生、ヒトの生活、ゆとり、高齢社会、ユニバーサルデザイン等々、どれも現代社会が抱える重要な問題です。L101教室に所狭しと並べられた作品やボードは、それらのテーマの中から自分自身の意志として考え、深く追求してきたものを形に表現しているものでした。必死に自己の成果をアピールされている皆さんの顔はムンムンとした熱気の中で輝いていました。そして、授業の時よりも最も緊張した良い顔でした。やればできる!! どうぞこれからの人生設計、目標を形にすることの喜びを思い出し、自信をもって推し進めて下さい。

佐藤 昌子

自信を持って下さい。世の悲観的風潮に騙されないで下さい。私たちの国は、まだまだ優れた能力と恵まれた資産を持っています。世界の国々に比べて日本の将来は決して暗くはありません。

自信を持って下さい。偶々今が就職難だからと言って、君たちが望まれていないわけではないのです。何と言っても、君たちは少子化時代の貴重な若者たちなのだから。

自信を持って下さい。確かに我が学科への入学は易しかったかも知れませんが、しかし、少なくとも十分な努力をした君は、今やどの大学を出た人たちにも負けない力を身につけているはずですよ。

しかし、成功は誰にでも平等に与えられるものではありません。頑張った者が例え今回は認められなかったとしても次には必ず報われるのと同様、怠け誤魔化し続ける者は例え今は何とか耐えたとしてもいつか必ず報いを受けます。君たち全員が、これからの人生を精一杯生きてくれることを祈ります。

藤井 豊史

今年は担任した学年であったためでしょうか、卒業研究発表会を四年間の成長を確かめるような思いで聞かせて頂きました。入学時には、みな同じようなペースで生活していましたが、興味の対象や様々な課題に取り組む姿勢に少しずつ個性が出てきましたね。そして、いよいよ社会に羽ばたくみなさんを送り出す日を迎えるようとしています。

畿央大学で過ごした毎日はいかがでしたか？思いっきり楽しめましたか？敢えて困難に臨んでみましたか？悲しく辛いこともあったでしょうか？友人とたくさん語り合いましたか？自分としっかり向き合いましたか？いろいろ尋ねてみたいのですが、もう時間がありません。

四年間の集大成のなかには、気が遠くなるような時間と努力をかけた思いが伝わってくるものと、残念ながら余力を残して完成させた感があるものが混在していました。美しさは感動を与えてくれますが、その美しさは形あるものだけに宿るのではないと思います。自身の集大成はいかがでしたか？これからの長い人生のなかで、多くの美と感動に出会えますように…みなさんの母校、畿央大学から祈念しています。

東 実千代

卒業研究はバブルのようなものである。青春とは一気に感情が大爆発し、やがてバブルのごとく破綻する、そのような時期かもしれない。後になって冷静に考えても、どうしてだかよくわからない。興奮し舞い上がっていたとしかいいようがないのだ。少しだけの知識と経験で強引に自分の考えを吐き出す、そしてはじける。正に夢のような出来事なのだ。そんな体験を通じて人は成長していけるのではないだろうか。

それにしても今年度の卒ゼミ生のスタートは遅すぎた。学生4年間の集大成であるべき大作を短期間でできるはずがない。卒業研究でバブルを体感できた人はどれだけいたのだろうか。大きな夢を描くにはたくさんの時間がいるのである。中にはもう少し早く始動していれば立派な作品になったのに、と残念に思う作品も多かった。

とはいっても印象に残る作品もあった。作品は嘘をつかない。その努力が垣間見れたものも少なくない。要は自分の持てる力を100%出せたかが問題なのだ。バブルの後は現実が待ち受けている。実社会というのは実は地味な活動の連続である。夢は決して捨ててはいけないが世の中はそんなに甘くはないのだ。着実に真摯に社会に向き合っていくことしか早道はない。

加藤 信喜

卒業制作が終わって、やれやれやっと終わったと思われた方が多いだろうし、実際大変だったと思います。でも、終わった時の達成感があったでしょうか？ある人は出来上がった時に涙を流したというぐらい、自分の考えた通りに造形的表現ができたという達成感があったといいます。また、自分の考えたイメージを表現しきれず、不完全燃焼の気分の人もいるでしょう。人それぞれ受け取り方は違うと思いますが、やっぱりよく頑張ったなと思えた方がいいですね。これだけ時間をかけて自由に思うままに（制作費用は抑えざるを得ませんが）デザイン作品を作り、制作できたことに大きく感動できる機会はそうないのではないかと思います。そういう意味で達成感のあまりなかった人は、もったいないことをしたと思います。でも、もし将来そういう機会があれば、今回の経験を思い出して今度こそ後悔しない作品や仕事ができ、感動の涙を流して欲しいです。

中山 順

「卒業研究締め切り」までのカウントダウンが始まった年明けから、時の過ぎるのがあまりにも速く、気が焦ったことでしょう。

この時期が来ると、笑顔で見守っているように見えても、指導教官もみなさんと同じ心境なのです。

「色んなことを我慢して、ここまで頑張ったのは生まれて初めてです」という言葉を聞いた時、本当にうれしく頼もしく思いました。特に最後の追いこみは素晴らしいものでした。日毎に疲れが見えてくる学生さんに反して、日に日に進化して元気になっていく作品。

きっと4年間の大学生活は、卒業研究のおかげで充実したしめくりになったことでしょう。

「人生は短距離走の連続」です。これからも目標を定めて思い切り走って下さい。そして疲れたときには、大学に戻ってきてください。そんな時でも私は卒研の追い込みの時のように「まだまだ走れる！もっと走りなさい！」って言うかもしれませんね。みなさんの今後のご活躍を期待しています。

村田 浩子

“子曰わく、‘学びて思わざれば則ち罔し。思いて学ばざれば則ち殆うし’。”

ボクは今回の審査で、この言葉を思い出した。読み方も意味もあなた自身で調べなさい。

ボクはこんなセリフを吐ける立場にない。それでもなお、この言葉をあなたに贈る。

*ボク個人の話で申し訳ないが、悔しい。ただただ、その一語に尽きる。

金敷 大之

畿央大学で4年間学んだことをひとつの卒業研究として仕上げるまでにはいろいろと苦労があったかと思います。ひとり、あるいは気の合う仲間とチームを組み、きびしい就職活動をしながらかテーマを決め、調査、打ち合わせなどの準備期間を経て、ひとつの「かたち」にする作業まで、試行錯誤を繰り返しながらやり遂げた結果に対する達成感、満足感は今やしっかりと身についているはずで、苦労した時間も楽しかった時間もそれぞれ忘れられない素敵な思い出となり、今後、この貴重な経験を社会人のお仕事でしっかりと活かしてほしいと切に願っています。今後のご活躍を期待しています。陰ながら応援しています。

李 沅貞

とうとう卒業ですね。4年間(5年間)ご苦労さまでした。今思い出すと本当に早かったです。この学年はみんな人懐っこくて授業も1回生の時からスムーズだった思い出があります。2年生になるとコース所属になって、同じ目標を目指す人たちと一緒に頑張って来たと思います。3年生も課題やゼミでどんどん忙しくなって毎日学校に来て頑張ってましたね。そして4年生卒業研究。みなさんどうでしたか。いろんな思いがあると思いますが悔やむことはないと思います。一番理解しているのは誰よりも自分自身だと思います。満足できた、できなかったは十分わかっているはずで、だからどちらにしてもこれを糧にこれから長い人生が頑張って行ってほしいと思います。私はみんなが大学時代を思い出してくれるだけで幸せです。友達同志で話すタネになればうれしいです。いろんな壁にぶち当たっても自分が正しいと思ったら曲げずに頑張って下さい。社会人が頑張って！

奥村 亜希

大学生生活の総決算となる卒業研究の最後の時期に、あなたたちの傍にいたことができなかったことは非常に残念に思っています。しかし、その代わりに私は人の母となり、喜びと同時により一層の責任をもつようになりました。

あなたたちも卒業研究という作品を産みだしました。大学最後という大きな変わり目に創り出した作品は、自分の分身として皆さんの中に深く刻みこまれたかと思えます。

産みだした作品に対して、いろいろな思いはあるかと思いますが、それを受け止める自分のこれからの人生の中に活かしていくことが作品に対する責任かと思えます。

卒業後の社会での活躍を祈っています。

長井 典子

学生諸君が四年間の学修の集大成としてまとめた、卒業研究・制作の発表を、私自身の自己啓発の意味も込めて視聴した。

自分の視座で個々の作品をじっくり見て評価し、さらに選ばれた作品については、他の教員の視座も窺いながらそれらの作品を評価することができた。作品の内容は多彩で広範囲にわたっているので一概にはいえないが、大多数の作品は、学生諸君が身近な生活に根ざした課題を探究・発見・創造したうえで、本学で修練した専門の知識・技術を駆使し、より豊かな生活環境の創造に向けて、若者らしい多くの可能性を秘めた提案を行っていたように思う。

これらの作品に込められた提案が、卒業研究のための一過性の課題解決にとどまることなく、これから雄飛する実社会の中で実務を通して、発展的に有効に生かせるようなものに昇華させてくれることを期待している。

岡井 豊治

人間環境デザイン学科 教員

教授

学科長 三井田康記
主任 斉藤 功子
佐藤 昌子
藤井 豊史

准教授

東 実千代
加藤 信喜
金敷 大之
中山 順
村田 浩子

講師

李 沅貞

助手

奥村 亜希
長井 典子

特任講師

岡井 豊治

作品集 編集委員

奥村 亜希
長井 典子

堀川 裕亮
田上 千穂
橋田英里子
松谷 美紀
北出 裕也
八木 逸斗
山本 太郎

卒業制作・論文作品集 5

2011年3月15日 発行

発行 畿央大学

健康科学部 人間環境デザイン学科

代表 学長 冬木 智子

〒635-0832 奈良県北葛城郡広陵町馬見中4-2-2

印刷 株式会社 明新社

